

第11回 GMOフリーゾーン全国交流集会 in みやぎ

遺伝子組み換え作物を栽培しない運動を広げて 豊かな自然を守り未来を描いていこう



参加したグリーンコープ組合員と天笠さん



海外からもGMO反対のメッセージが届きました

20世紀は都市の世紀。大都市は経済の中心であり、そこに豊かさがある

真の豊かさを生み出す 経済とは

豊かな地域社会をつくるために必要なのが、ソーシャルビジネスとコミュニティビジネス

自然と共に生き 自然の力を学ぶ学校作り

作家のC.W.ニコルさんが長野県の地域資源を活かす試みとして再生した素晴らしい森に、震災の年から毎年被災地の子どもたちを招く取り組みをしていました。子どもたちは震災で深い心の傷



海外からもGMO反対のメッセージが届きました

基調講演



私が描いている持続可能な社会とは、一言で言えば「生命主義」です。そのベースになっているのは「ガイアの思想」

風見 正三さん

重要です。そこで大事なのは、コミュニティづくりです。コミュニティが豊かな地域であると思える

グリーンコープの取り組み報告



グリーンコープ共同代表理事 田中 裕子さん

2005年からスタートした自生GMナタネ汚染調査活動を、2015年度も全14単協で実施しました。全体で295カ所を調査し、その結果を「自生遺伝子組み換えナタネ汚染調査報告書」として作成しています



持続可能な豊かな地域を築いて 第11回 GMOフリーゾーン全国交流集会 in みやぎ

在来野菜鍋ムーブメントから 仙台のまちは何を学ぶか

宮城のセリ農家 公益財団法人みやぎ・環境とくらしネットワーク理事

特別報告

三浦 隆弘さん



在来野菜とは、栽培者自身が自家採種などによってその地域で世代を越えて、栽培・保存を続けてきた野菜です

自分は食べるものや自分の台所の向こう側に、どんな人がどんな土地で、どのように作っているか、そんな風景が見えるような食べものに出会えることが大切なのだと思います

その動きに対抗するため、私たちの取り組みもいっそうの国際的な連帯と飛躍が求められています

大会宣言(一部抜粋)

いま、世界の市民運動が取り組んでいる最大のテーマの一つが、遺伝子組み換え食品です

グリーンコープは、食品の安全性や自然環境を守る予防原則の立場から、生物の遺伝子进行操作する遺伝子組み換え作物(以下、GMO)に一貫して反対を続け、GMOを栽培しない地域を広げる「GMOフリーゾーン運動」に積極的に取り組んでいます

年に1回、GMOフリーゾーン運動をすすめる全国の仲間が集まり、互いの状況を共有し運動への思いを新たにしています

今回のGMOフリーゾーン全国交流集会は、東日本大震災から5年が経った宮城県仙台市で開催されました

GMOフリーの社会をつくっていくためには、私たちの足元の暮らしや地域、食と農を守り、未来の世代につなげていくことが本場に大事です

2014年の世界のGMOの栽培面積は、1億8150万haで、世界の農地の10%以上となりました

今、世界中でGMO食品反対運動が広がっています。何よりも大きいのは米国でのGMO食品表示運動で、バーモント州では今年7月から食品のGMO表示が開始され、今後全米に広がっていくと思われ

報告

GMOフリーゾーン運動は 私たちの食と農を守る運動

天笠 啓祐さん

遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン代表

GMOの現状 1、GMOが増えている 米国でGMOリンゴが承認された

GM原料表示をしないで、EJでは全ての食品に表示をしなければならぬ

GMフリーゾーン運動 今、世界中でGMO食品反対運動が広がっています

日本のGMOフリーゾーン(農地)登録状況(2016年2月29日現在)

Table with 10 columns: 面積, 前年増, 面積, 前年増, 面積, 前年増, 面積, 前年増, 面積, 前年増. Rows include various Japanese prefectures like 北海道, 青森, 岩手, etc.

はグリーンコープエリア